

主題：
ヨハネの繕う務め

メッセージ 12

ヨハネの務めにおける三一の神の分与

聖書：ヨハネ1:1. 14:7-21, 23. 3:34. 16:13-15.

I ヨハネ2:27. 3:9. 啓12:10-11. 21:9-10. 22:13

- I. ヨハネの文書の主題は、宇宙全体の実際、中心、内容です。それは、三一の神がご自身を、選ばれた人々の中へと、彼らの命、命の供給として分与して、彼らをみな神聖な者たちにして、完全に、永遠に神を表現させることを望んでいるということです。これはまた、わたしたちの実際、わたしたちの中心、わたしたちの内容となるべきです。
- II. ヨハネの文書は、神聖な三一が、神聖な行動において、わたしたちの経験の中で、ご自身を、わたしたちの中へと分与することを明らかにしています：
- A. ヨハネ第14章6節は言います、「わたしは道であり、実際であり、命である。わたしを通してでなければ、だれも父に来ることはない」。もしわたしたちが、わたしたちの対象である父に届こうとするなら、道である子を通して父に届かなければなりません。
- B. 7節から14節が示しているのは、父が子の中に具体化していることが信者たちの間に見られるということ、すなわち、子は信者たちの間で父の具体化であるということです。これらの節で主がわたしたちに示しているのは、主が父の中におり、父が子の中にいるということです。子と父は一です。両者は相互に内在しています。
- C. 続けて15節から20節がわたしたちに示しているのは、子はその霊として信者たちの中に住んでいるということ、すなわち、その霊は信者たちの中に住んでいる子の実際化であるということです。
- D. 対象である父、具体化である子、実際化であるその霊は、容器であるわたしたちの中にいます。対象、具体化、実際化は、土の器であるわたしたちの中の卓越した宝です（Ⅱコリント4:7）。
- E. ヨハネ第14章21節と23節が示しているのは、子をご自身を彼の愛する者に現すことと、父が子と共に来て、子の愛する者と共に住まいを造るということです：
1. 対象である父は、具体化であるイエスの中におり、この具体化は神の実際化であるその霊の中にいます。そして、この実際化は今や、まさにわたしたちすべての者の中に住んでいるその霊です。しかし、わたしたちが問う必要があるのは、わたしたちにとっての主イエスの現れを、わたしたちは毎日、毎時さえも享受しているかどうかということです。
 2. わたしたちにとっての主の現れを、わたしたちは失うかもしれませんが、これはわたしたちがその霊の内住を失ったことを意味するものではありません。その霊は常に信者たちの中に住んでいます。

3. 自分たちの救いを失うことがあり得ることを信じている者たちは、実際には、「エレベーター式の救い」を信じているのです。すなわち、エレベーターが上がると、彼らは救われていますが、それが下がると、彼らは救われていないと信じています。
 4. しかしながら、わたしたちの救いはエレベーターではなく「階段」です。わたしたちは決して階段から取り除かれることはできません。たとえわたしたちが階段の上にいるとしても、わたしたちは階段の最高の部分の祝福を享受したいのです。
 5. わたしたちは「地下」にいたいのではなく、最上階にいたいのです。これが、わたしたちが主イエスを愛し、「主イエスよ、あなたを愛します」と言う必要がある理由です。わたしたちは彼を愛するとき、最上階へともたらされます。そして、わたしたちはあらゆるものが天にあることを見ます—— I コリント2:9-10、コロサイ3:1-2。
 6. わたしたちが彼を愛するとき、神の霊がわたしたちの中に住んでいるだけでなく、彼はご自身をわたしたちに現します。これは、わたしたちが彼との交わりの中で、わたしたちの愛する方の臨在を持っていることを意味します。
 7. わたしたちがイエスを愛するなら、イエスはわたしたちを愛し、父もわたしたちを愛します。子をご自身をわたしたちに現すとき、父は子と共に来て、わたしたちと共に住まいを造り、わたしたちと共にとどまります——ヨハネ14:21, 23。
 8. わたしたちは、わたしたちと共に住まいを造る父と子と共に、わたしたちにとっての子の現れの中へと、ますますもたらされる必要があります。わたしたちは主を愛することによって主の救いという階段を昇る必要があります。
 9. そうすれば、彼はご自身をわたしたちに現し、父と子はわたしたちの享受のために、わたしたちと共に住まいを造ります。
- F. 信者に対する神聖な三一の神聖な伝達は、ヨハネ第16章13節から15節に啓示されています：
1. この伝達はまるで電流の伝達のようなものです。電気のスイッチが入れられると、電流が生じ、電気が走ります。その行動が伝達です——参照、ローマ8:2、I テサロニケ5:16-20。
 2. 第一に、父が持っているものはすべて、子のものです——ヨハネ16:15。
 3. 第二に、子が持っているものはすべて、その霊によって受け取られます——14節後半。
 4. 第三に、その霊が子から受けたものはすべて、信者たちに明らかにされます——13, 15節後半。
 5. 最終的に、神聖な三一であるすべてと、神聖な三一が持っているすべては、わたしたちのものです。詩歌382番の3節はこの伝達について語っています：
 - a. 「父が持つておられるすべてはあなたに受け継がれ、あなたの『である子すべてはその霊に集約されました。その霊はあなたの実際としてわたしの霊に入り、あなたをわたしの経験とならせます」(全訳)。
 - b. この伝達は、父から子へ、子からその霊へ、その霊からわたしたちへです。これが、わたしたちの経験のための神聖な三一の行動です。

Ⅲ. わたしたちは、三一の神を命として、三部分から成るわたしたちの存在の中へと分与するキリストが、ヨハネによって分け与えられたことを見る必要があります：

- A. キリストは、初めにヨハネによって、神として分け与えられました。この神はまさに命の源であり、命の水の川として流れる永遠の命でもあります——ヨハネ1:1. 3:36. 5:26. 啓22:1。
- B. ヨハネによれば、キリストは永遠のロゴス、すなわち、神を定義し、説明し、表現する方です——ヨハネ1:1. I ヨハネ1:1. 啓19:13。
- C. キリストは神のひとり子、すなわち、言、命、光、恵み、実際によって神を宣言した方です——ヨハネ1:18. 3:16. 1:34. 20:31。
- D. キリストは永遠の命、神の神聖な非受造の命です。彼は時間の中で永続するだけでなく、神の永遠の分与のために、性質において永遠で神聖です——I ヨハネ1:2. ヨハネ11:25. 14:6。
- E. キリストはその霊を与える方であり、その霊はわたしたちに届く三一の神です。三一の神がわたしたちに届くとき、神はご自身をわたしたちの中へと分与します——3:34。
- F. わたしたちのキリストは人の性質を持つ人の子です（1:51. 啓1:13）。彼は贖いのために人の子であって、わたしたちの罪を取り除き、わたしたちと神との間の問題を解決します。それは、神がわたしたちの中へと分与されるためです。
- G. ヨハネは神の小羊としてのキリストを分け与えました（ヨハネ1:29. 啓5:6. 7:14. 17. 13:8. 22:1）。贖う小羊は命としての神を人の中へと分与するためです（参照、出12:8-11）。
- H. 小羊として、キリストはわたしたちの罪のためのなだめの供え物です（I ヨハネ2:2）。主イエス・キリストはご自身を、わたしたちの罪のための犠牲として神にささげましたが（ヘブル9:28）、それは、贖いのためだけでなく、神の必要を満たすためでもあり、こうして、わたしたちと神との間の関係をなだめました。このゆえに、彼は神の御前で、わたしたちのなだめのための犠牲です。
- I. キリストは父を伴うわたしたちの弁護者です（I ヨハネ2:1）。「弁護者」というギリシャ語は、他の人のそばに召されて助ける人のことです。ですから、助け手です。それはまた、法律上の助けをする人、あるいは他の人のためにとりなす人のことです。ですから、弁護者、助言者、仲保者です：
 - 1. 啓示録第12章10節から11節によれば、サタンは神の子供たちを昼も夜も訴えています。彼らは小羊の血のゆえに彼に打ち勝つことができます。
 - 2. サタンはわたしたちを汚れており、聖くなく、不義であると訴えるかもしれませんが、父なる神は言います、「サタンよ、義なる方であるイエス・キリストを見なさい。わたしの子供たちは良き弁護者を持っている」。
 - 3. わたしたちはサタンに告げなければなりません、「黙りなさい！ 何も言うてはいけない！」。それから、わたしたちは「小羊にハレルヤ！ 血のゆえにハレルヤ！」と言うことによって、小羊を賛美する必要があります。
 - 4. わたしたちが「ハレルヤ！」と叫ぶとき、再び命がわたしたちの中へと分与されます。わたしたちの弁護者であるキリストはわたしたちの案件を顧みています。

それは命の分与が絶え間なく続くことができるためです。

- J. わたしたちのキリストはアルファでありオメガです (22:13前)。キリストがギリシャ語のアルファベットの最初の文字アルファであり、最後の文字オメガであり、その間のすべての文字でもあることは、命を無尽蔵に分与するためです。
- K. キリストは最初の者また最後の者であり (2:8. 22:13中)、いつまでも存在する、変わることのない方です：
1. どのような迫害する環境であっても、主は同じままです。何も彼に先んずることはできないし、何も彼の後に存在することはできません。
 2. 万物は彼の支配の範囲内にあります。キリストはあらゆる物とあらゆる場所を占有しています。
- L. キリストは初めであり終わりです (13節後)。「初め」とは彼が万物の起源であることを示し、「終わり」とは彼が万物の終結であることを示します。ですから、これは、主イエスの前にも後にも何もないというだけでなく、彼がなければ起源も終結もないことを示します (参照、ローマ11:36)。
- M. キリストは神の創造の初めです (啓3:14)。これは、主が神の創造の起源あるいは源であることを示しており、主が神をご自身の選ばれた者たちの中へと分与するための彼の働きが変わることのない、いつまでも存在する源であることを暗示します。これは、ラオデキヤにおける墮落し回復された召会が、源としての主から離れることによって変わってしまったことを示します (エレミヤ2:13)。
- N. キリストは生きている者です。啓示録第1章17節から18節でキリストは言いました、「わたしは……生きている者である。わたしは死んだが、見よ、永遠にわたって生きている。そして、死とハデス [陰府] のかぎを持っている」。キリストが命を分与するために、彼は召会を生ける神の家 (I テモテ3:15) とする、生きている方であればなりません。
- O. キリストは聖なる者、真実なる者です (啓3:7)、兄弟愛の召会にとって、主は聖なる者、真実なる者です。この方によって、この方をもって、回復された召会は聖くあり、この世から分離し、神に対して真実で忠信であることができます。
- P. キリストはアーメンである方、忠信で真実な証人です (14節後半)：
1. バベルでの混乱は世界共通語を破壊しましたが、二つの言葉、すなわち、「ハレルヤ」と「アーメン」は破壊されませんでした。「アーメン」は「その通りです」という意味にほかなりません。
 2. アーメンは一種の永遠の肯定です。「その通りです」は、まさにキリストご自身です。キリストには一つの名があって、彼の名はアーメン、すなわち、その通りです！と呼ばれます。これは命を分与するためです。
 3. キリストはアーメン (その意味は、「確固とした」、「堅実な」、「信頼するに足る」です) であるので、彼は神の証人として忠信で真実です。
- Q. そのようなキリストが分け与えられることから、神の子たちが生み出されます。彼らは永遠の命を持ち (ヨハネ3:16)、主の中に住み、光の中を歩くことによって永遠の命の交わりにあずかり (I ヨハネ1:3-7. 2:6)、油塗りによって教えられ (20, 27節)、神聖な種を伴う神聖な誕生の美德を享受し (3:9. 2:29. 4:7. 5:1, 4, 16-2

- 1)、イエスの証し、すなわち、三一の神の表現としての燭台となり（啓1:9-12, 20）、命の表現としての初穂を伴う収穫となり（14:1-5, 15-16）、彼の増し加わりと満足としての小羊の花嫁となります（ヨハネ3:29-30. 啓19:7-9）。
- R. 最終的に、三一の神と、贖われ、再生され、造り変えられ、栄光化された三部分から成る人との結合、ミングリング、合併が、新エルサレムとなり、それは三一の神を人の中へと分与することの究極的な完成です——21:2-3, 9-10, 22-23. 22:1-2。

© 2017 *Living Stream Ministry*